

臨床研究に関する情報公開について

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	警察の介入を受けた性暴力被害者への医療対応に関する後方視的検討			
実施予定期間	研究実施許可日 ～ （西暦）2027年1月31日			
実施診療科	産婦人科			
研究の審査等	臨床研究審査委員会審査日		2025年5月29日	
	研究実施承認日		2025年5月29日	
対象となる方	対象期間内に、けいゆう病院産婦人科を性暴力被害のため受診し診察を受けた方			
対象期間	（西暦）2012年5月1日～（西暦）2025年1月31日			
研究責任者	所 属	産婦人科	氏 名	長谷川 慶太
研究の意義	性暴力は、被害者の方の身体的のみならず精神的なダメージも大きく、日常生活や職業をも脅かす可能性を有する社会的問題です。近年、性暴力被害者や支援団体が声を上げ、社会全体でそれらを根絶する気運が高まっているにも関わらず、実際に認知される性被害事例は多くありません。我が国でも女性の14人に1人、男性の100人に1人は強制的性交等を受けた経験があるとされます。しかし、被害者の診察は一つの医療機関に患者が集中する訳ではないため、患者背景や採取した検査項目の陽性・陰性率や評価方法に関するデータは統括されておりません。今回、被害女性の方の背景や初回来院時の感染症検査結果、再受診患者の割合などについて調査することで、今までに報告されていないデータを補完し医療機関がそれらの検査を行う意義を明確にするだけでなく、急性ストレス反応などを来している可能性のある被害者およびその家族の方などへ、適切な診察及び情報提供を行うことが可能になると考えられます。			
研究の目的	本研究は、過去12年間に当院に警察の依頼で当院を受診した性暴力被害女性について、患者背景、診察所見、DNA鑑定用検体の採取状況、緊急避妊薬処方状況、性感染症検査結果、性被害に起因すると考えられる妊娠の有無、再診のために来院する患者の割合などについて実態調査を行うことが目的です。			
研究の方法	対象となる方の臨床情報・検査結果について、診療録を振り返って収集します。なお、収集した情報はインターネット上のデータベースなどへ登録する予定はありません。			
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を匿名化した上で使用します。（年齢、身長・体重などの基本情報、疾患情報、手術情報、検査結果、診察所見、処方状況など）			

結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定ですが、個人を特定できる情報として公表されることはありません。
個人情報の保護	対象者となる方の情報使用に関しては、個人を特定できる情報を削除して番号（匿名化）を付けた上で研究責任者の責任のもと厳重に管理・保管します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
お問い合わせ	一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 電話 045-221-8181（代表） 内線2107 産婦人科 長谷川 慶太